

海外ボランティア 海外インターンシップ

海外フィールドワーク

個人または教員企画の海外フィールドワークも、条件を満たせば助成金の支給対象となります。

対象	従事時間 15 時間以上の海外フィールドワーク ※経済学部国際学科で単位習得目的の場合は 30 時間以上	研修費用	総額 各自異なる
期間	夏休み、冬休み、または春休み期間中	助成金	大学からの助成金 【東アジア、東南アジア地域】6万円 【それ以外の地域】8万円
単位認定	なし（経済学部国際学科はあり）	補助金	後援会助成金・同窓会補助金 2万円
その他	・研修終了後、研修先から従事時間のわかる修了証もしくは活動証明書が発行されること（本学教員企画を除く） ・渡航費のわかる書類や、領収書が提出できることなど （詳しくは全体説明会もしくは窓口でご確認ください）	説明会時期【参加必須】	夏季プログラム：5月上旬（申請時期 6月上旬） 冬季・春季プログラム：10月上旬（申請時期 11月下旬）

個人または教員企画の海外ボランティア・インターンシップも、条件を満たせば助成金の支給対象となります。

対象	・従事時間 30 時間以上の海外ボランティア ・従事時間 30 時間以上の海外インターンシップ ※経済学部国際学科で単位習得目的の場合は 60 時間以上	研修費用	総額 各自異なる
期間	夏休み、冬休み、または春休み期間中	助成金	大学からの助成金 【東アジア、東南アジア地域】6万円 【それ以外の地域】8万円
単位認定	なし（経済学部国際学科は従事時間などの条件を満たせばあり）	補助金	後援会助成金・同窓会補助金 2万円
その他	・研修終了後、研修先から従事時間のわかる修了証もしくは活動証明書が発行されること（本学教員企画を除く） ・渡航費のわかる書類や、領収書が提出できることなど （詳しくは全体説明会もしくは窓口でご確認ください）	説明会時期【参加必須】	夏季プログラム：5月中旬（申請時期 6月上旬） 冬季・春季プログラム：10月上旬（申請時期 11月中旬）

わたしの活動体験記

海外フィールドワーク ラオス・タイ

2019年度
春季
渡航時
2年生

経済学部 野崎 謙二ゼミ
柴田 菜摘



出発から帰国までのスケジュール

- 2月8日(土) 出国～ラオス
- 2月9日(日) 研修：タラート・サオ、ヴィエンチャン・センターにおける市場調査
- 2月10日(月) 研修：ラオス国立大学学生と打ち合わせ
モン族の居住地域訪問、文化体験、市場調査
- 2月11日(火) 研修：ナムグムダム工事現場視察
- 2月12日(水) 研修：IV-Japan スタディツアー
NGO 活動の説明、介護・理美容訓練の体験
- 2月13日(木) 研修：ラオス国立大学でのプレゼンテーション、
キャンパスツアー、学生交流
出国～タイ
- 2月14日(金) 研修：UN-ESCAP 訪問
出国～日本

今回のフィールドワークでは、演習で ASEAN の経済開発を学んだことを踏まえ、ラオスとタイを訪問しました。ラオスでは経済開発の現状及び課題を把握すること、タイでは国連アジア太平洋経済委員会を訪問し、国際機関が地域開発にどのように貢献しているか学習することが目的でした。

ラオスでは人材育成に携わっている国際 NGO 団体の IV-Japan を訪問しました。IV-Japan は、家庭の経済状況により学校に通えなかったり、仕事に直結する知識や技能を持っていないかたりする学生を支援するための職業訓練場を開いています。そこでは、真剣に実習を行う学生の姿勢に刺激を受けた一方で、理美容や調理、縫製、介護のスキルがどれほどの収入につながり、家庭の経済状況の安定につながるのかという将来の不確実性も感じられました。IV-Japan では授業を受けるために必要な言語の修得を第一ステップとして行っていますが、実際に社会に出て働き、経済的に自立するまでがいかに長期戦であるかということを感じました。さらに、学生に対して奨学金の給付を行っているものの、企業からの出資は無いとのことだったため、社会がいかに低所得国で行われている人材育成に関心を持ち、支援を行っていくことが出来るかが今後の課題だと考えました。

加えて、ラオスではナムグムダムという開発支援の現場を訪問しました。開発事業に携わる日本工営株式会社の職員の方のお話が非常に印象的で、地域住民にとって開発がどうあるべきかということ深く考えさせられました。開発

支援は支援国の国力を誇示するための手段という見方もありますが、地域住民がその開発事業を誇りに思えるかどうか、開発の意義や恩恵を日々の生活の中で実感できるかどうかということの方が重要なのだと学ぶことが出来ました。タイの国連アジア太平洋経済委員会 (UN-ESCAP) では、職員の方から職務内容やこれまでのキャリアについてお話を伺いました。国際機関で長年勤務されている方のお話は自分のイメージしていたものやインターネットの情報よりも複雑でしたが、自分の将来のキャリアをより現実的に考える貴重な機会になりました。

今回のフィールドワークで初めて低所得国を訪れましたが、人材育成や開発支援の現場を間近で見ることが出来たこと、現地の方からリアルなお話を伺うことが出来たことは非常に貴重な経験になりました。この経験を活かして、今後は講義や自主学習を通して更に見聞を広めていきたいです。



わたしの活動体験記

海外ボランティア カンボジア

2018年度
春季
渡航時
2年生

経済学部
田村 明日香



とある一日のスケジュール

- 8:00-8:30 英語の授業
- 9:00-10:00 ビデオ鑑賞、クメール語授業、
レゴ遊びなど
- 10:00-10:20 手洗い指導
- 10:20-10:50 ランチ手伝い
(食事補助など)
- 10:50-11:00 歯磨き手伝い
- 11:00-11:30 お昼寝手伝い
- 11:30-14:30 その日に応じた作業
- 15:00-15:30 おやつ手伝い
- 15:30-16:00 お迎え手伝い

私は春休みを利用して2週間カンボジアに行き、幼稚園でボランティア活動をしてきました。過去に短期留学経験はあったのですが、もっと海外で英語を話してみたいと考え、海外ボランティアへの参加を決めました。カンボジアのボランティアをする上で3つの目標を立てました。

- コミュニケーションをとること
こちらはおおむね達成できたと考えています。団体ではなく、個人で活動に参加し、2週間のうち初めの1週間は、日本人はおらず、コミュニケーションを取るには英語を使わざるおえない状況でした。また、活動先では幼稚園の先生にはほとんど英語は通じませんでした。そのため、ポディーラングージや、指差し会話帳を使用しました。今までは海外に行ったときには、コミュニケーションがうまく取れないときには黙ってしまいがちでした。今回は、周りに日本語が通じる人がいなかったため、自分が伝えたいことを伝えるために何でもしました。英語ができることよりも、頑張る姿が大切なのだと実感しました。
- カンボジアの現状を自分の目で見て、考えること

まさに「百聞は一見に如かず」でした。カンボジアの首都プノンペンは高層ビル、コンビニなどがあり、発展している姿がみられました。しかし、私が活動していた中心部から5-6kmほど離れたところでは、道路にゴミが無造作に捨てられていたり、野良犬がいたり、停電が起こったりしました。40kmほど離れたと、裸足で子どもたちが物を売っており格差を実感しました。カンボジアの長引いた内戦の傷跡を実感しました。

3. 求められていることと、求められている以上のことをすること
活動の中で毎日行った英語の授業は、毎回試行錯誤の繰り返しでした。私は、普段は子どもと接する機会があまりなかったため、どのように授業をすれば子どもたちが飽きずに受けられるか、考えながら進めていきました。無邪気な子どもの笑顔や、一緒に活動したメンバーにも助けられ、最善を尽くすことができました。

今回のボランティアでは、カンボジア、世界中から集まったボランティアの仲間、現地スタッフの方などの素敵な人たちに出会えたことが一番の財産です。活動を通して、将来のこと、カンボジアのこと、子どもたちの将来についてこれからも考えていこうと思います。

